

都市のイメージ
著者：ケヴィン・リンチ
3780円(税別)



岩波書店



イメージアビリティという概念を提唱 都市デザインに新風を吹き込んだ本

都市のイメージに関する本はな
いものかと探していたところ、そ
のものズバリのタイトルの本を発見
した。1960年にアメリカで発行
されたもので、マサチューセツ
工科大学教授のケヴィン・リンチ
氏が著者である。日本語訳は、東
都庁舎の設計で有名な丹下健三氏
と富田玲子氏の翻訳で1968年
に出版された。2007年には新
装版が出ている。

この本で、リンチ氏は、「イメー
ジアビリティ」という独自の概念
を提唱し、都市デザインの世界に
新風を吹き込んだのだという。

ちなみに、イメージアビリティ
とは、あざやかなアイデンティ
ティと強力なストラクチャー(構
造)をそなえ、環境のイメージをつ
くるのに非常に役立つ色や形や配

置などをいうそうだ。わかりやす
さとか見えやすさと呼ばれてもよ
いものという。

この概念を展開し、また都市の
イメージを視覚的現実と対比さ
せ、どんな形態が強いイメージを
生むのかを知り、その原則を提案
するため、ボストン、ジャージー・
シテイ、ロサンゼルスにおいて、詳
細な調査を行ない、分析している。

リンチ氏によれば、特色があつ
てわかりやすい環境は、安定感
もたらずのみならず、人間の体験
が達しうる深さと密度を高め
るといふ。その例としてフイレン
ツエを挙げている。

美しく、楽しい、喜びある都市の
姿とはどういうものか、そのデザ
イン原理について考える時にそば
に置いておきたい一冊だ。GL